

名前が教えてくれたこと

那覇市立天久小学校三年 知念 芽生

私は、家ぞくで海軍ごう公園に行きました。前に来た時には遊具で遊んだだけだったけれど、今回はし料館にも行ってみました。坂をのぼったおかの上にし料館がありました。ここには、三千人のへいたいさんでほったごうがあることが分かりました。せんそうの時につくられたそうです。大きくなるはしでほって人の力だけで土をはこび出したと知ってびっくりしました。土の中から見つかった物もてんじされていました。古い水とうやわれたおさらのほかにも、石けん箱やペンケース、おわんのような手りゅうだんもありました。

「これ、お名前書いているね。」

私は古びたペンケースにも、石けん箱にも、くっきりと名前が書かれているのがふしぎに思いました。だって、私の体育着や上ばきの名前は、すぐにうすくなってしまからです。

「自分の名前をほったんだろうね。」

といっしょに見ていた母が言いました。よく見てみると、何でもほったあとが見えました。ぜったいにのこるようにはあったかと思ひました。どうして名前をのこしたかったのだろう？と考えてみました。最初はたくさんの人がいて間ちがわないうにかな？と思ひました。でも、てきやばくだんが近づ

いて、明日にでもいなくなっちゃいそうだからかな、とも思ひました。自分がここにいたんだよ、生きていたんだよ、というシルシをのこしたのかもしれない。この海軍ごうでは、四千人の命がうばわれたそうです。その一人一人ががんばって生きていたんだと思ひます。シルシをのこすくらい、一生けんめい生きたのだと思ひます。そして、本当はもっともっと生きて、かがやきたかった命がたくさんあったと思ひます。「ぬちどう宝よ」そう言っているように感じました。また、このシルシをだれにのこしたんだろう？と考えました。家族や大切な人にのこしたのかもしれない。はなれていても、あえなくても、ずっと思っていたのかもしれない。大好きな家ぞくと会うことさえかなわなかった。そう考えると、悲しくて、むねがしめつけられました。いつか、まっている家ぞくのところに帰れるといいな、と思ひました。そして家ぞくといられる今は、平和なんだなと思ひました。

「平和がいい」「仲良くしたい」そう思っているのに、さい近は兄とけんかすることもあります。小さなことから、いやな言葉を言い合ひました。今は平和で、家族がいっしょにいられて幸せなのに、けんかをするのはおかしいと思ひます。食べ物を分け合ったり、席をゆずりあったりする方が、もっと笑顔がふえると思ひます。今ある平和が続くように私もできることをがんばろうと思ひます。相手の考えをよく聞いて、話し合ひ、リスペクトすることを大切に生きていきたいです。